

平成 29 年度 参加と協働市民フォーラム

第 2 回

狛江☆サミット

実施報告



平成 30 年 3 月

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会

狛江市

目的

順調に活発な活動を行っている団体の代表に、団体の活動に関するノウハウや成功例を教えてもらうことで、活動方法に悩む団体へのノウハウの提供や、市民活動へ興味を持っている個人への意識啓発を目指す。また、参加団体のPRの場をつくる。

フォーラムテーマ

「どう作る？あなたの狛江ライフ」

主催／企画運営

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会
狛江市

日時・場所

平成30年1月13日（土） 午後1時～3時15分
狛江市防災センター4階会議室

出席者数

- ・参加者：36人
- ・市民参加と市民協働に関する審議会委員：12人
- ・市事務局：3人

計 51人

当日の流れ

- 13:00 開会あいさつ <市民参加と市民協働に関する審議会副会長>
- 13:10 各団体の発表（4団体）
－ 休憩 － ※参加者は会場内のパネル展示を見て回った
- 14:05 グループトーク（4グループ）
- 14:50 各グループから感想発表
- 15:15 閉会あいさつ <狛江市企画財政部政策室長>

各団体の発表

4つの参加団体より、団体の活動や、継続して活動ができるようになった経緯や市との連携方法などについて発表していただいた。

◇NPO 法人 こどもの遊びと育ちを支える会・狛江

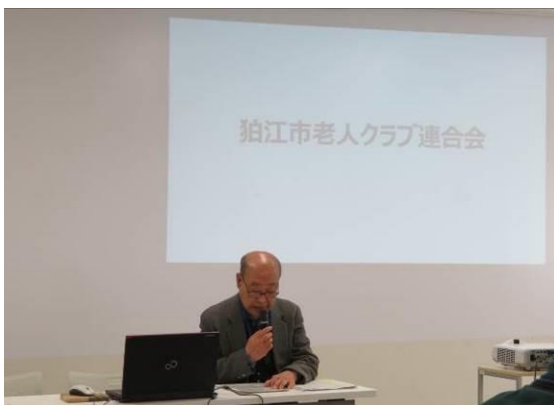
発表者：代表 岡本 千栄子 様



外遊びを通して子どもが地域の中で自ら育つ場として「狛江プレーパーク」の運営・管理を行う。会員は狛江市在住の母親達を中心となっている。会員の他にプレーワーカーを2名配置しており、NPO法人の職員として雇用している。幼児から高校生、大人まで幅広い年齢層が来る場所であり、地域の方とも交流が行われている。当初は市補助金の交付を受けて単発でプレーパークを実施してきたが、狛江市市民協働提案事業に応募し、

平成24～25年度にて常設オープンに向けて市とともに調査研究を行った。その後、設置準備委員会で会議した結果を市長へ答申し、市が最終決定を行った後、近隣住民の方と話し合いを行い本決定となった。平成26年度から周知のための開催を行い、平成28年2月29日に常設オープンした。運営は市から委託を受けており、委託料のほとんどが人件費となっており、試行錯誤して活動している。行政ではできないことでも、市民だからこそできることがあると感じている。今後も狛江市のためにやっていきたい。

◇狛江市老人クラブ連合会 発表者：会長 國井 功雄 様



現在の会員数は1,040名となっており、市内全域にわたって16の会員クラブがある。予算規模は、会員数にもよるが各クラブ50～100万円程度、連合会200万円程度となっている。財源は1,200円の年会費の他、市補助金で運営されている。主な活動拠点は、各公民館、地域・地区センター、体育館、市民グラウンドなど全域にわたる。連合会は、教養部・体育部・健康部・女性部・奉仕部・総務部に分かれており、各部において、芸能祭り

や市後援による医師講演会、募金活動、地域の清掃活動などの各種事業を行っている。会報を年2回発行しており、企業からの広告掲載料によって作成している。会員は70～80歳がほとんどであり、若い会員が少ないのが悩みである。加入率は、60代0.7%、70代4.6%、80～100歳8.2%となっている。入会は、以前は概ね60歳以上としていたが、最近では50歳でも入ってもらっている。ただし、会員の年齢層が幅広いため、運営上悩ましい点もある。今

後は団塊の世代が 75 歳に入るため、老人クラブの運営方法について考えていく必要がある。

◇狛江市ビーチボール協会 発表者：副会長 岩崎 純子 様

団体参加者 2 名（三角 久美子 様、安生 栄利子 様）



ビーチボールは、富山県朝日町で生まれた。バドミントンのダブルスのコートで 4 対 4 のチームに分かれ、ビーチボールを使用した基本がバレーボールに似た競技である。ジャパンカップが年 1 回全国各地で開催され、来年は東京都で行われる。狛江にビーチボールが普及したのは 30 年ほど前で、15 年前に協会が設立された。現在は市内に 6 団体、個人登録が 46 名いる。一人 1,000 円の年会費が協会の運営費となる。現在、「ジュニア育成地域推進事業」として都から補助金をもらい、年 20 回ジュニア教室を運営している。

KoKoA やサマースクールでも指導している。歴代の子ども達は各地区の大会に参加し、常に上位入賞を収めている。市との連携としては、9 月のスポレク・ビーチボール大会に運営協力している。市から要請された小菅村の子ども達にも指導させてもらっている。ビーチボールをさらに普及させることが今後の展望である。ビーチボールは、「いつでも どこでも だれでも」がキャッチフレーズであり、小学生から高齢者までができるスポーツはそうそうない。皆さんも是非一度体験してほしい。

◇comaecolor 発表者：副代表 高野 充吉 様

団体参加者 2 名（代表 篠塚 雄一郎 様、副代表 山本 雅美 様）



comaecolor の名前の由来は、狛江から狛江の色を全国に向けて発信していくというものである。運営のコアメンバーは多種多様で、代表は会社員であり、飲食店オーナーや、音楽業界、デザイナーなど多様な方に賛同していただき一緒に活動している。人と人の繋がりによって成り立っている。外からの目も大事にしており、市外のメンバーもいる。2015 年に発足し、16、17 年にタマリバというイベントを行った。企業協賛や市からの補助は受けておらず、資本に頼らない DIY という形でスタートした。初年度は 3,000 人を動員した。17 年は、5 月に多摩川のほとりの週末カフェをコンセプトに川田旅館とコラボして Sotokawada を立ち上げた。デッキの費用はクラウドファンディングにて賄った。夏には 2 回目のタマリバを開催。広告は打たず SNS を中心に拡散した。初回はかなり赤字だったが、今回はぎりぎり黒字となった。今後もお金の集め方を含めて調整していきたい。運営費は、テナント料や飲食売上金、会場での寄付金集めの他、クラウドファンディングも活用した。市内企業からも協賛をいただいたが資金調達には苦労している。SNS 世代でない方達との交

流が課題となっている。メディアには多く取り上げられ、「suumo」では水辺のまち10選の第一位に取り上げてもらった。ソトノバという団体の第1回アワードで大賞も受賞した。狛江を良くしていきたい団体なので、多岐にわたって活動していきたい。河川敷の有効活用などについて、他団体のように市とうまく協働してやっていきたい。

各団体のパネル展示

第1回狛江☆サミットに参加した5つの団体より、団体の活動についてパネル展示を行っていただいた。開会前と休憩時間に参加者にご覧いただき、展示団体との交流も図った。

<パネル展示団体>

- ◇コマエンジェル
- ◇狛江ともしび音楽隊
- ◇NPO 法人狛江子ども食堂
- ◇NPO 法人フードバンク狛江
- ◇市民センターを考える市民の会

※展示内容は、12ページ以降を参照



<参加者から団体へのコメント>

◇コマエンジェル

- ・歌もダンスも超一流！いつも若々しくうらやましいですね。
- ・めざましテレビ観ました！大ファンです。2018年、たくさんステージがあることを期待しています。
- ・本格的パフォーマンス毎回楽しみに観てます。パワーをもらっています。
- ・狛江の宝です！！がんばって下さい。
- ・素敵なパフォーマンス、いつも元気をいただいています。ガンバッテ！！

- ・みんなに元気をとどけられる皆さんのパフォーマンスですね。頑張ってください！

◇狛江ともしび音楽隊

- ・いつも楽しい音楽をありがとう！
- ・音楽の街にふさわしい！これからも期待しています。
- ・皆様の細く長くほのぼのとした活動、すばらしいですね。長く続けて下さい。
- ・音楽をもとに皆の気持ちも明るくしてくださっています。
- ・更に多くの人を巻きこんで下さい。がんばれ！！
- ・皆さんの笑顔がすてきですね。音楽ってすごい！

◇NPO 法人フードバンク狛江

- ・良い活動だと思います。もっと広報されては！！がんばってください。
- ・地域の子どもとご家族の為にいつもおしめない活動をされている皆様には“すごい”の言葉しかありません。

◇NPO 法人狛江子ども食堂

- ・様々な問題も含み大変な活動とは思いますが、時を待ちながら続けていって下さいますよう。
- ・継続した運営を期待しています！こうした場所がもっと増えるといいですね。
- ・たくさんの子どもたちとつながると期待しています。
- ・子どもたちに地産地消も体験いただきたいかな。がんばってください。

◇市民センターを考える市民の会

- ・若い方々も多く関わってらっしゃいますね。新しい市民センター、期待しています。
- ・大学生や次世代の子どもたちの意見も欲しいと思います。
- ・子どもからお年寄りまで集いやすい施設を期待しています。
- ・早めの実現するといいですね！

グループトーク

4つのグループに分かれ、発表団体と参加者、審議会委員でグループトークを行った。

◇Aグループ：狛江市ビーチボール協会 三角様、comaecolor 高野様

◇Bグループ：NPO 法人こどもの遊びと育ちを支える会・狛江 岡本様、
狛江市ビーチボール協会 安生様

◇Cグループ：comaecolor 篠塚様

◇Dグループ：狛江市老人クラブ連合会 國井様、comaecolor 山本様

<各グループの報告から>

◇Aグループ

- ・それぞれの活動紹介を兼ね、団体が抱えている課題や意見交換を中心とした。
- ・グループトークの基点となっていたのは、発表していただいた comaecolor からの、「どうやって周知や情報収集を行っているか」についてだった。
- ・ビーチボール協会はもっとビーチボールを普及させたいが、特に子どもとシニア層への普及が課題となっている。
- ・フードバンク狛江はメンバー側の年齢層が高いこともあり、ホームページを立ち上げたものの、なかなか上手く活用できていないところが課題となっている。
- ・市民センターを考える市民の会では、チラシを作成して配布してもワークショップへの集まりが悪く、SNS を使って周知していくことを考えている。
- ・市民大学は、多くの市民の方へ取組みを知ってもらうための方法を検討している。
- ・周知の方法として、SNS は今非常に注目されているが、その特徴を効果的に使うことが大事だろう。また、SNS も大事だが、足を運んで個と個が繋がる中で伝えていくことも有効である。
- ・周知にあたっては、どのような人達にどれだけ周知したいのかといったターゲティングをしっかりと行うことが大事である。狛江子ども食堂では、本当に必要な子どもに届けるために、ある程度周知する機関を限定した取組みを行っていたり、地域ごとにチラシを限定して小学校へ配布したりされており、取組みのヒントを共有することができた。

◇Bグループ

- ・プレーパークは、自分の子どもが公園に行った時に、穴を掘ったり木に登ったら怒られる環境を見て、世田谷区のプレーパークでは火を熾したりもできたため、狛江にも必要ではないかということで始まった。現状は資金面の問題があり、市からの助成金はあるが、プレーワーカーの給料がほとんどのため苦労している。例えば、子どもが泥遊びすると、プレーパークの土がどんどん流れてなくなってしまう。地元の土建屋さんに土の寄付をいただいても、土を運んだり盛るのはメンバーであり、大変重労働とのことだった。その他にも、プレーワーカーの育成や子どもの怪我対策、近隣住民との調整など様々な課題がある。
- ・ビーチボールは、ビーチボールを使ったバレーボールのため、そんなにスピードも出ずに安全にできる。対象年齢が小学生から高齢者まで幅広く、様々な方が参加することができる。例えば、専業主婦の方は狛江市内で子どもが通う幼稚園や小・中学校にて仲間をつくるができるが、旦那さんは働きに出て行っているため狛江市内に仲間がいないことが多いという。そういった際に、ビーチボールを始めて狛江の人と知り合いになるのも一つの手である。
- ・プレーパークもビーチボールも地域の方との交流を深められる場であり、狛江市の小ささも生かして、知り合いや友人を作ることに活用してはどうだろうか。

◇Cグループ

- ・団体の活動をしている中で一番困るのは資金集めである。comaecolor が活用したクラウドファンディングでは、ただお金を集めているわけではなく返礼品としてコーヒーチケットを配り、当日のイベントで使えるようにした。また、ただ1杯飲んで終わりだけではなく、イベントで何かを体験できる等の付加価値をつけることが大事である。
- ・comaecolor では SNS 等を活用して広報を広くしているが、インターネットで充実した情報を発信することが大事である。それ以外では、リーフレットやポストカードを飲食店など様々な場所に設置している。配布物はデザインに配慮していて、プロのカメラマンとデザイナーのメンバーが無償で作ってくれているためである。他の団体でも周りの方に作成をお願いしているが、ここまでのものはできないのではない。そういった際には、「プロボノ」というプロの方がボランティアとしてプロのスキルを提供してくれるようなやり方を活用すれば、精度の高い広報物が作れるのではないだろうか。
- ・老人クラブへは、若い人は引きこもるのではなく、もっと活動に参加してもらえれば良いと考える。老人クラブに限らず、各団体共通の課題は後継者不足である。
- ・comaecolor としては、2019 年度は味の素スタジアムで開催されるラグビーワールドカップへ多くの人が集まるため、その時に市と協働により狛江を知ってもらう機会を多く作りたい。狛江と言えば多摩川であり、河川敷を活用して海外の方にも狛江を PR していきたい。
- ・武蔵野プレイスに行ったが、狛江は狛江の良さで活動ができるのではないか。市内にもふらっと立ち寄れる憩いの場が欲しい。狛江市であればこまかくば 1 2 3 4 がそれに当たるのではないか。

◇Dグループ

- ・老人クラブへ入会する際には、老人クラブは各地域にあるが、あまり自分の住んでいる地域などにはこだわらず、知り合いの方がいる会へ入った方がコミュニケーションがとりやすい。また、女性は自分の趣味に合った会を選ぶ方が多い。
- ・老人クラブの役員は年齢に関係なくできる方がやっており、最高齢の役員は 96 歳と、年齢ではなくやる気が大事ということが伺える。
- ・comaecolor が活用したクラウドファンディングはお金を集めるためのツールであるが、大事なのはイベントに対する共鳴や、それによってファンができ、たくさんの方がイベントに参加してくれることにある。お金よりも人の繋がりが大事なため、返礼品としては金銭的なものを返すのではなく、例えばメンバーの一人であるプロのカメラマンによる写真を自由にダウンロードできるようにするなどの内容を考えている。
- ・狛江のセールスポイントは、空が広いことである。調布のように栄えていなくても、静かな町として PR する方法もあると考える。
- ・狛江は「音楽の街」を謳っているが、少し中途半端にも感じる。駅前三角地を整備するのであれば、例えば時間帯を決めて、その時間内は自由に演奏して良いとすれば市のセールスポイントになるのではないか。

アンケート集計結果

<性別>

◇男性：12人 ◇女性：8人 (無回答：2人)

<年齢>

◇20歳未満：0人 ◇20代：2人 ◇30代：1人 ◇40代：4人
◇50代：2人 ◇60代：7人 ◇70代：2人 ◇80歳以上：4人

<職業>

◇学生：0人 ◇会社員：2人 ◇自営業：2人 ◇公務員：1人
◇無職：11人 ◇その他：6人 (パート、団体役員、他)

<本日のフォーラムに参加してどうでしたか>

◇満足だった：14人 ◇どちらともいえない：4人 ◇満足とはいえない：0人
(無回答：4人)

<この事業を何で知りましたか>〔複数回答可〕

◇広報こまえ：7人 ◇狛江市ホームページ：1人 ◇知り合いに誘われた：7人
◇ポスター：1人 ◇チラシ：4人 (狛江団地、あいとぴあ)
◇その他：8人 (発表依頼、政策室からのメール、他)

<興味のある市民活動はありますか>〔複数回答可〕

◇防災・災害支援：5人 ◇障がい者支援：3人 ◇介護 (予防・サービス)：3人
◇子育て：5人 ◇青少年：3人 ◇環境・自然：6人
◇スポーツ：7人 ◇学習・学び：5人 ◇文化・芸術・音楽：8人
◇地域活動：10人 ◇その他：2人 (生活困窮者支援、社会活動)

★具体的な団体名がありましたら、ご記入ください

- ・comaecolor (3人)
- ・狛江理容組合
- ・市民センターを考える市民の会
- ・狛老連 (狛江団地健康クラブ会員)
- ・主婦のダンスパフォーマンスチーム「コマエンジェル」
- ・子どもから高齢者まで参加している市民劇団「ミュージカル CoCo～」
- ・ビーチボール協会 (2人)
- ・NPO 法人遊育会 (こどもの遊びと育ちを支える会・狛江)
- ・NPO 法人フードバンク狛江

<行政と市民活動団体が一緒に取組むと良い協働事業はありますか>〔複数回答可〕

- ◇防災・災害支援：7人 ◇障がい者支援：1人 ◇介護（予防・サービス）：3人
◇子育て：6人 ◇青少年：3人 ◇環境・自然：4人
◇スポーツ：2人 ◇学習・学び：4人 ◇文化・芸術・音楽：8人
◇地域活動：7人 ◇その他：2人（食品ロスの削減、困窮者支援と食品ロス）

★具体的な取組み内容をご記入ください

- ・ 独居高齢者の見守り
- ・ ビーチボール（ビーチボールを通して、Body、Mental をきたえる。⇒社会参加、役割、自分の役割に対する責任、同僚との共有）
- ・ comaeicolor（これからの社会を見つめ、Ideaを通してDream And Heartful）
- ・ 日本フードエコロジーセンター社長が狛江市民です。先月ドイツで発表もされています。この方の講演やセンター訪問などを取り組む。
- ・ 発表できなかったのを記述する。旧荒木邸、兜塚、万葉塚など市内を散歩したり老人会なども最近はウォーキングが増えている。その参加者に便利なマップを作ったかどうか。そのマップを駅や商店においてもらう。Etc.

<主なご意見・ご感想>

- ・ 各団体とも資金を集めるのに苦労されていることがよくわかった。団体の活動に対するファンをいかに生み出していくのが大事と思った。
- ・ 大変参考になりました。
- ・ 貴重な話ができて良かったです。
- ・ 今回初めて参加しました。皆さん方が活躍されていることが良くわかりました。
- ・ 様々なグループが参加していて、交流ができて良かったと思います。
- ・ 今回何も知らずに初めて参加させていただきましたが、発表を一通りお聞きし、おかげでいろいろな活動をしているのを知ることができただけでも、有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。
- ・ この様な場をもっと多く創り、拡げて行くことは有意義だと思います。年令を越えて、多数の方がfreetalkを続けて行くことが大切だと思いました。
- ・ 普段ふれることのない様々な活動をされている団体の方々のお話がきけて楽しい有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・ 狛江のことを考えて熱心に活動されている方々のことを知ることができ、勉強になりましたし、うれしい気持ちになりました。活動に参加していきたいです。
- ・ 家庭から食品ロスをなくし、それを活用する取り組み。狛江には日本フードエコロジーセンターの代表がいます。世界的にも活躍されているこの方をコマエで活用した取り組みができないか。
- ・ 交流だけで終わるのはもったいない。又、発表の団体も広い分野。この取組みを通じて何をめざすのか?!が大事かも。
- ・ プレゼンをした4人の中で、会の活動が分かったのは老人会だけ。あとの三団体は会を

紹介するA 4一枚のチラシを使って欲しい。率直に言って、これだけの会を開きながら、余り効果的でなかったのではないか。

- ・ 狛江市民になって日が浅いため、狛江をもっと知りたく参加致しましたが、団体発表でパワーポイントでの説明だけで手元資料がなにもないため、わかりづらかったです。資料が手元にあればよく理解できたかなと思います。

(アンケート回答者：22人)

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員名簿・役割

氏名	役割
奥村 隆一	会長
内海 貴美	副会長、補佐 (A)
平 美和	司会、全体総括、補佐 (D)
長谷川 好道	受付
愛甲 悦子	受付、補佐 (C)
藤川 隆司	会場案内、記録係 (B)
石田 琢智	会場案内、進行係 (B)
島本 和彦	進行係 (A)
大塚 隆人	記録係 (A)
松本 和美	進行係 (C)
松崎 学	記録係 (C)
宍戸 泉	進行係 (D)
関 幸一	記録係 (D)
小川 憲一郎	
西家 将善	

* () 内のアルファベットは、グループトークのグループ名

フォーラムを終えて (委員の感想から)

- ・ 今回のサミットの目的は4団体の成功例を発表するというもので、スライドによる概要発表と、グループごとの団体メンバー交えたトークによって、参加者に対しても目的が十分に伝わったのではないだろうか。私自身も活動内容を知ることができ、非常に良かった。
- ・ 各グループのプレゼンターがとても上手だった。発言もきちんと伝わった。
- ・ 若い方が中心となっているグループもあるため、これからもこういった機会をつくり、活発になっていったら良いと考える。

- ・こういう場に参加される方はご自身の意見を話したい方が多く、皆さんに一言ずつでも話してもらうことが大事と感じた。何度か重ねている中では大変盛況に行われていたと思う。
- ・特に問題なく形となったが、長い目で見れば課題もたくさんあった。一般で来てくれる方も半分くらいは関係者であり、普通の一般の方に興味を持っていただける内容というのが、審議会だからこそ分野を絞れないため難しいと思う。成功してきたフォーラムの良い点を取り上げながらも形を変え、もっと一般の方が来てくれるように変えていかなければいけないと思う。ただ、来場者は一様に楽しかったと言ってくださり、こうした狛江サミットの緩い輪の作り方は残しつつ続けていってほしい。
- ・目的は達せられたと思うが、参加者のご意見を讀むと新たな課題も見えてきたと感じる。また、グループトーク時のホワイトボードの効果を非常に感じた。今後も続けるべき。
- ・当日受付を担当していたが、一部定刻より遅れて参加された方もおり、時間厳守が期待される。Dグループで國井会長のお話を聞いていて、老人クラブは18年の歴史があり参考になったと感じる。
- ・Bグループにいて感じたことは、参加者の方が非常に会話がスムーズで馴れていらっしやったということ。こういう場に來られる方は意識が高いと感じる。
- ・意識の高い方が多く、話を繋ぐだけで大丈夫だった。そういった方は市内に多くいらっしやると思うため、もっと発掘できると良い。
- ・グループトークのメンバーをミックスしたことが良かった。例えば、周知の仕方をとってみても、若い方は最先端の方法で、老人クラブはまた違う方法でということがあり、それぞれのアイディアをもらったりやり方を聞きあったりと、アドバイスしあえたことが良かった。交流できたことで、お互いに得られるものがあったと見受けられた。
- ・次年度、幅広い方々に声をかけられるよう周知の仕方を工夫していきたい。



資 料
＜パネル展示＞

コマエンジェル

活動内容

育児、仕事などの理由で、ダンスなどの習い事ができない主婦層を中心にした、体と心を解放できるパフォーマンス集団です。
子連れでもできて、お財布に優しい会費で活動できる、敷居の低い本格的パフォーマンス集団。
狛江市内外のイベントに出演しています。

活動場所

主に西河原公民館や、狛江体育館など

新しく活動していること

昨年度から今年度中旬にかけては、10周年記念公演とその再演で、様々な地域に出向き、公演をしました。
来年度からは、また地域に密着して、独特のテイストで狛江を発信していければと思っています。

メッセージ！

昨年の10周年記念公演ではありがたいことに、反響が反響を呼び、山形、新宿、銀座にて再演をすることができました。
これからはまた、地域に密着し、舞台だけでなく映像やイベントに関わり、さらに狛江を盛り上げていく所存です。

ホームページ

<http://ommr91.wixsite.com/komaangel>



問い合わせ先

TEL : 03-3430-5444
Email : ommr@smail.plala.or.jp
代表 平美和



活動の様子



コマエンジェルに
メッセージをどうぞ！

※ふせんを貼り付けてください

狛江 ともしび音楽隊

活動場所

野川地域センターの音楽室にて練習
毎月2・4週の日曜日の午後1時から5時まで

新しく活動していること

今年から、演奏者2名とボーカル1名の隊員が増えて、計20名の音楽隊となりました。

ホームページ

<https://komaekubo1234.kokosil.net/ja/place/00001f000000000000020000003f0045>



活動内容

2001年3月に設立した当音楽隊は、老人ホームや各施設を訪問し、昭和歌謡を中心に歌と演奏で首を傾かしみ、楽しいひと時を過ごしていただくことを目的にしてまいりました。

また、近年は、狛江市が主催する行事等にも参加して演奏活動を広げており、120回以上のステージとレパートリー240曲を超えるようになりました。

今年では設立から16年を経過して、トロンボーン演奏者を加え、総員20名となりました。

メッセージ！

狛江市内を中心に、老人ホーム等へ演奏に伺います。
演奏のご要望がありましたら、是非お声かけください！

問い合わせ先

TEL : 03-3489-1391
090-1406-9966
代表 伊藤 輝芳



活動の様子



狛江ともしび音楽隊に
メッセージをどうぞ！

※ふせんを貼り付けてください

NPO法人 フードバンク 狛江

活動内容

まだ食べられるが眠っていたり廃棄される食品を、市民や企業から寄贈してもらい、狛江市の生活困窮相談窓口『こまYELL』と連携して、今日明日の食に困っている世帯へ食料を無償提供する社会活動をしています。

日本では632万トンの食品ロス、そのうち282万トンが家庭から出ています。

一方で、まだ7人に一人の子ども（親も）が相対的貧困にあり、フードバンク狛江では二つの社会的課題に取り組んでいます。

活動場所

倉庫連絡事務所（中和泉3-12-3パインハウス狛江101号室）※12月から移転しました。
毎週月・木曜日（祝日は翌日が活動日）、第4日曜日（変更もあり）午後1時～3時
食品整理・3時からボランティア会議（参加自由）

新しく活動していること

こまえくぼ1234（狛江市市民活動支援センター）に加えて、こまえ苑・こまえ正吉苑でもフードドライブ受け付けが可能になりました。また、食品提供で繋がった地域の団体も、子ども食堂をはじめ16団体に増えました。

ホームページ

<http://fb-komae.org>



メッセージ！

まだ食べられる、家庭で眠る「もったいない」食品を、「いただきます」のフードバンク活動で確実に助かる家族がいます！様々な地域の福祉団体とも食品提供でお付き合い、声かけあって、ともに心豊かな支え合う地域・町、狛江へ！

問い合わせ先

中和泉3-12-3パインハウス狛江101号室
NPO法人フードバンク狛江
TEL：03-5497-0272
Email：info@fb-komae.org



活動の様子



フードバンク狛江に
メッセージをどうぞ！

※ふせんを貼り付けてください

NPO法人 狛江 こども食堂

活動内容

特定非営利活動法人として活動をしています。
 狛江市を中心に広く子ども達を対象として、いろいろな人と一緒に楽しく食事をする機会を提供するとともに、安全安心な食事を提供し、食の大切さを学ぶ機会を提供することを目的としています。
 また、狛江市の子どもたちの食の支援、居場所づくりに寄与することも目的として活動しています。

活動場所

上和泉地域センター、野川地域センター、南部地域センター、岩戸地域センターなど

新しく活動していること

子ども食堂の他に、3月に映画鑑賞会、5月には狛江駅前三角地にて「子どもフェスタ」を実施しました。また、7月には「ファミリージャズライブ」、「朝食付き！ラジオ体操」を実施し、様々な活動に取り組んでいます。

メッセージ！

子ども達にとって、学校以外にも、地域で、誰でも来て安心して話せる“居場所”が必要です。狛江子ども食堂が、そのひとつを担えればと願っています。

ホームページ

<https://ja-jp.facebook.com/komae.kodomo/>



問い合わせ先

事務所 駒井町1-5-1
 NPO法人狛江子ども食堂
 TEL : 090-1766-6992
 Email : kodomoshokudo-komae@gmail.com
 代表 市川

活動の様子



狛江子ども食堂に
メッセージをどうぞ！

※ふせんを貼り付けてください

市民センター を考える 市民の会

活動内容

1. 市民と行政の協働のまちづくりとして、市民センター増改築を実現する。
2. 市民センターのハード面、ソフト面の両面から狛江市にふさわしいものを提案する。
3. ハード面では現在の建物の上に木造による増築を検討し、提案している。
4. コミュニティ・スペースの充実を提案。

活動場所

中央公民館の会議室
 定例活動日時：毎月第4金曜日、午後7時から
 臨時活動日時：その都度連絡

新しく活動していること

市の調査委託によりコンサルタントから示された増改築方法の検討案について、『市民提案書』実現の立場から内容を検討しています。

「市民の会」は別案で、より低コストで工事で工事期間が短い方法として、CLTによる木造縦増築案を提案しています。この案は専門家による構造計算（保有水平耐力）の概算で安全性が確認されています。

メッセージ！

市民センターの増改築は、木造による縦増築を実現し、狛江の新しい文化スポット、新名所として全国に知って貰おう！

水と緑のまち「こまえ」、安心安全なまち「こまえ」にふさわしい市民センターの実現に向けて、皆様のご支援、ご協力及びご指導をお願いいたします。

ホームページ

<http://www.komae-tokyo.org/shimin/>



問い合わせ先

FAX : 03-3430-1402
 Email : shimin@komae-tokyo.org
 代表 立川 節子



活動の様子



市民センターを考える市民の会
 に、メッセージをどうぞ！

※ふせんを貼り付けてください

平成 30 年 3 月発行

平成 29 年度 参加と協働市民フォーラム

「第 2 回 狛江☆サミット」実施報告

狛江市市民参加と市民協働に関する審議会／狛江市

〔問い合わせ〕 狛江市企画財政部政策室協働調整担当

03-3430-1164